

二階堂ふみ
長谷川博己

福田靖子

利重剛

上田耕一

石橋蓮司

奥田瑛二

工藤夕貴

脚本
監督
荒井晴彦

原作
「この国の空」(新潮文庫刊)
高井有一

詩
「わたしが一番きれいだったとき」茨木のり子

製作
奥山和由

撮影
川上皓市

美術
松宮敏之

照明
川井稔

録音
照井康政

編集
洲崎千恵子

助監督
野本史生

制作担当
大森洋亮

ラインプロデューサー
近藤貴彦

音楽
下田逸郎 萩田奈穂

製作
「この国の空」製作委員会

(「ともとクリエイティブエンジニアリング」チコオタヤマ)

製作ロケーション
スヌードグリオハイ KATSU-Go

撮影
大和ハウス工業

配給
ファーム・フィルム KATSU-Go

助成
文化芸術振興費補助金

©2015「この国」製作委員会

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争で負けた

この国の空



私は愛も知らずにて、

1945年、終戦間近の東京。

19歳の里子（二階堂ふみ）は

母親（工藤夕貴）と

杉並区の住宅地に暮らしている。

度重なる空襲に怯え、

雨が降ると雨水が流れ込んでくる防空壕、

日に日に物価は高くなり、

まともな食べ物も口には出来ないが、

健気に生活している。

妻子を疎開させた銀行支店長の

市毛（長谷川博己）が隣に住んでいる。

里子の周りでは、

日に日に戦況が悪化していく。

田舎へ疎開していく者、

東京に残ろうとする者……。

戦争が終わると囁かれはするものの、
すでに婚期を迎えた里子には、

この状況下では結婚などは望めそうもない。

自分は男性と結ばれることなく、

死んでいくのだろうか。

その不安を抱えながら、

市毛の身の回りの世話をすることが
だんだんと喜びとなり、

そしていつしか里子の中の
「女」が目覚めていくのだが……。



主

演の里子役に二階堂ふみ。戦争という極限状態のなか「結婚もできないまま、死んでいくのだろうか」という不安な想いと同時に覚悟を決め、傍にいた妻子ある男・市毛との許されぬ恋に突き進む心の葛藤を見事に体现し、圧倒的な存在感を放つ。市毛役には長谷川博己。妻子がいながら里子に惹かれ渴望する男を情熱的に演じた。そして工藤夕貴、富田靖子、石橋蓮司、奥田瑛二ら豪華実力派俳優が脇をかため、戦時下の激しい空襲と飢餓が迫る恐怖のなかを生きる人々を丹念に描いた人間ドラマ。さらに里子が朗読するのは、戦後を代表する女流詩人茨木のり子の「わたしが一番きれいだったとき」。19歳で終戦を迎える時の経験を基に書かれたこの詩の世界観が、強くまっすぐな里子の心情と重なり、深い余韻を残している。



終戦70周年記念作品

二階堂ふみ 長谷川博己 富田靖子 利重剛 上田耕一 石橋蓮司 奥田瑛二 工藤夕貴

脚本・監督:荒井晴彦 原作:高井有一「この国の大空」(新潮文庫刊) 詩:「わたしが一番きれいだったとき」茨木のり子

製作:奥山和由 プロデューサー:森重見 撮影:川上信市 美術:松宮敏之 照明:川井稔 録音:照井康政

編集:洲崎千恵子 助監督:野本史生 制作担当:森洋亮 ラインプロデューサー:近藤貴彦 音楽:下田逸郎、柴田奈穂

製作:「この国の大空」製作委員会(よしもとクリエイティブエージェンシー/チームオクヤマ) 制作プロダクション:ステューディオスリー KATSU-do

協賛:大和ハウス工業 配給:ファントム・フィルム KATSU-do ©2015「この国の大空」製作委員会

[2015/日本/カラー/130分/ピストラ/DCP5.1ch] 助成:文化庁文化芸術振興費補助金 kuni-sora.com

戦後70年。それぞれの戦争を描いた作品をシネマシティは連続公開いたします。

8月22日(土)公開 「野火」 7月25日公開
 「日本のいちばん長い日」 8月8日公開

CINEMA CITY

<http://cinemacity.co.jp>

042(525)1251